

令和6年度第1回船橋市文化振興推進協議会会議録

(令和6年11月7日作成)

1 開催日時

令和6年10月24日（木曜日）午前10時00分～午前12時00分

2 開催場所

船橋市役所 11階 113会議室

3 出席者

- (1) 委員 太下会長、松本副会長、小野木委員、小原委員、澤田委員、菅根委員、高屋委員、日野原委員、村田委員
- (2) 事務局 阿部文化課長、藤巻文化課長補佐、和田文化振興係長、碓氷主任主事、金子郷土資料館長、金児市民文化ホール館長

4 欠席者

倉本委員

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

- (1) 委嘱状の交付【公開】
- (2) 第2次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価の見直しについて【公開】
- (3) 次期方針の策定について【公開】
- (4) その他【公開】

6 傍聴者数

1人

7 決定事項等

- (1) 委嘱状の交付
 - ・村田委員に委嘱状を交付した。
- (2) 第2次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価の見直しについて
 - ・事業評価の見直しの経緯・現状・見直し案等について説明し、各委員の意見を伺った。
- (3) 次期方針の策定について
 - ・次期方針策定に向けてのおおまかな予定・市民委員の公募等について説明した。
- (4) その他

- ・各実施事業について報告・紹介した。
- ・文化イベント情報紙「BUNBUN Funabashi.」のレイアウト変更について報告した。
- ・船橋市教育委員会組織規則の改正について報告した。
- ・今後のスケジュール及び議題について報告した。

8 問い合わせ先

教育委員会生涯学習部文化課

0 4 7 - 4 3 6 - 2 8 9 4

9 議事

○事務局（文化課長補佐）

本日はお集まりいただきありがとうございます。

会議に先立ちお手元の資料を確認させていただきます。委員の皆様は事前にお送りした資料をご持参いただいたかと思いますが、本日追加で配布した資料もございますので、合わせてご確認をお願いいたします。

船橋市文化振興推進協議会委員名簿、令和6年度第1回船橋市文化振興推進協議会席次表、令和6年度第1回船橋市文化振興推進協議会 次第、資料1-1 第2次船橋市文化振興基本方針に係る事業評価方法の見直しについて、資料1-2 第2次船橋市文化振興基本方針の施策体系、資料1-3（現）進捗管理シート、資料1-4（現）二次評価シート、資料1-5（新）進捗管理シート、資料1-6 個別事業評価シート、資料2 船橋市文化振興推進協議会の設置の経緯、今後の予定等、資料3-1 BUNBUN Funabashi. 第31号、資料3-2 BUNBUN Funabashi. 第32号、資料3-3 BUNBUN Funabashi. 第33号、資料4-1 船橋市教育委員会組織規則 改正前、資料4-2 船橋市教育委員会組織規則 改正後。

続きまして、チラシ等の確認をさせていただきます。第11回ふなばしミュージックストリートパンフレット、第23回縄文コンテンプラリー展 in ふなばし 風土～縄文の造形と世界～、令和6年度吉澤野球博物館資料展示室企画展 君の推しはどこだ！～戦国千葉の甲子園～、令和6年度船橋市郷土資料館企画展船橋の食文化のチラシ、こちらは資料ですが、船橋市民文化ホール大規模改修工事に伴う休館（予定）のお知らせ、令和6年度船橋市文化芸術ホール自主事業計画一覧。

以上でございますが、皆様、不足資料はございませんでしょうか。

ここで、事務局から委員の皆様に2点、お願いがございます。

本会議は公開会議であるため、後日議事録を公開いたします。AI音声認識システムを用いて、本会議の進行と同時に、皆様のご発言を文字に起こしてまいります。

そこで、1点目、皆様のお近くにマイクをご用意いたしました。ご発言の際は、マイクの電源を上を上げて、オンにしてからご発言いただき、ご発言が終わりましたら電源を下を下げ、オフにさせていただきますようお願いいたします。ご不便をおかけしてしまい誠に申し訳ございませんが、マイクの本数に限りがございますので、お近くの委員の方と共用でお使いいただければと思います。

2点目、ご発言の際は、まずお名前をお申し出ください。

お手数おかけして誠に恐縮でございますが、ご協力いただければ幸いです。

それでは、これより令和6年度第1回船橋市文化振興推進協議会を開催させていただきます。「船橋市情報公開条例」第26条及び「船橋市文化振興推進協議会設置要綱」第8条により、本日の会議につきましては公開といたします。

本日午前10時00分の締め切りとしてご案内したところ、傍聴希望の方は、1名、いらっしゃいます。お入り下さい。

議題に入る前に、令和6年4月の人事異動に伴い、事務局職員が一部変わりました

ので、改めてご挨拶申し上げます。阿部課長よりお願いします。

○事務局（文化課長）

文化課長の阿部でございます。本日は、ご多忙の折、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

今回は令和6年度第1回の開催となります。例年は7月に第1回の会議を行い、文化振興基本方針関連事業の評価をお願いしていたのですが、この事業評価について、より実効性のあるものにしたいという思いから、事務局にて内容の見直しを検討しておりました。後ほど担当から、見直し案の内容についてご説明いたしますので、ご協議いただきますようお願いいたします。

さて、先日の土・日曜日は船橋駅近辺の各所で「ふなばしミュージックストリート」を開催し、様々なジャンルのアーティストに参加していただき、市民の皆様に楽しんでいただくことができました。また、秋は市内で民間事業者主催の催しも含め、音楽やダンス、飲食が楽しめる大規模イベントが多く、9月22日は船橋親水公園でふなばしミートフェスタ、翌日にはハワイアンフェスティバル、そして9月28・29日には船橋市民まつりが開催されました。市民まつりでは地域に根差した、神輿やばか面、民謡パレードに加え、若い人を中心とした新しい文化、よさこいやストリートダンスなども大変な人気で、路上を多くの観客で埋め尽くしていたのが印象的でした。

近年、文化芸術の裾野が大変広がっており、その多様さも活かしながら、文化振興基本方針の総合指標である“船橋市を「文化が盛んなまち」と思う市民の割合”を着実に伸ばしていけるよう努めてまいりたいと思います。委員の皆様方におかれましては、それぞれの見地から忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。それでは、本日はよろしく願いいたします。次に文化課の職員、自己紹介をお願いいたします。

○事務局（文化課長補佐）

文化課長補佐の藤巻と申します。今年の4月1日に広報課から文化課に異動いたしました。よろしくお願いいたします。

○事務局（文化振興係長）

文化課文化振興係長の和田です。よろしくお願いいたします。

○事務局（文化課係員）

文化課文化振興係員の碓氷です。よろしくお願いいたします。

○事務局（文化課長補佐）

続きまして、委嘱状の交付を行います。令和6年9月10日付けで池戸康夫委員から、新たに村田佐江子様が委員に就任されました。阿部課長より村田委員に委嘱状を交付させていただきます。村田委員、大変お手数おかけいたしますが、その場にご起立をお願いいたします。

○事務局（文化課長）

村田委員。船橋市文化振興推進協議会委員を委嘱します。期間は令和7年3月31日までとします。

○事務局（文化課長補佐）

ありがとうございました。それでは村田委員より一言ご挨拶いただけますでしょうか。

○村田委員

村田でございます。前任の池戸さんという自治会連合協議会の方がいらっしゃったんですが、後任として私が受けさせていただいたんですけれども、今日初めて来たものですから、落ち着いておりませんので、皆様どうぞ、愛情を持って見ていただければと思います。文化のことについては、子供達のこととか、音楽のこととか、本当に盛んになっていって、船橋が良い街になればいいな、ということで日頃考えておりますけれども、庶民の一底辺のところから考えております。ということで、皆様どうぞ、愛情の目で見ていただいて、よろしくお願いいたします。

○事務局（文化課長補佐）

ありがとうございました。

これより会議次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

それでは、要綱第6条の規定により議事の進行は、会長の太下様にお願いいたします。

○太下会長

太下です。改めまして、よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って議事を進めていきたいと思います。

資料は、先ほど事務局から説明したとおりとなりますが、今一度ご確認いただければと思います。

では、まず議題1、第2次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価の見直しについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局（文化振興係長）

それでは、第2次船橋市文化振興基本方針に基づく事業評価の見直しについてご説明いたします。皆様には、後程ご説明する、個別事業評価の対象事業、及び、個別事業評価シート、について、ご意見をお伺いしたいと思います。

では、資料の1-1をご覧ください。まず、事業評価の現状について振り返らせていただき、見直しに至る経緯をご説明いたします。

事業評価の目的は2つございます。資料1-2にある、第2次方針の関連事業について、A)進捗管理を行う、B)文化振興推進協議会委員の専門的知見から助言・提案をいただく、というものです。

これらの目的のために、2つの評価を実施しています。

A)進捗管理評価は、資料1-3（現）進捗管理シート、を用いて、定例・定型的な事業、安定的に継続することに意義がある事業の全35事業について、事業所管課が毎年度実績報告を行っています。そして、委員の皆様には、コメントがある場合のみ特記事項として記入していただいています。

B)二次評価は、資料1-4（現）二次評価シート、を用いて、文化振興との関連性が密接であるものや、本市の施策推進において重点的に取り組むべき事業の全18

事業について、事業所管課が一次評価として自己評価し、委員の皆様に二次評価として助言・提案をいただいています。

このような方法で事業評価を実施していますが、庁内や委員の方から、事業を見ていないのに書面だけで評価できない、評価指標が定性的である、問題点や改善点を積極的に書き込める様式が良い、といったご意見をいただきました。

また、現在の評価方法では重点プログラムの評価を実施していない、という問題も挙がりました。

これらの経緯から、事業評価方法の見直しを図ることといたしました。

それでは、評価方法の見直し案についてご説明いたします。新しい評価方法では、A)進捗管理評価と、B)個別事業評価の2種類の評価を実施していこうと考えています。

まず、A)進捗管理評価、についてご説明いたします。資料1-1、及び、資料1-5（新）進捗管理シート、をご覧ください。こちらは、資料1-2にある第2次方針の全事業について、事業所管課が事業報告を行います。事業所管課は、目標・実績・決算額・予算額・5段階評価による目標達成度、等を報告します。

この評価はあくまで実績報告による進捗管理が目的のため、協議会委員による評価は行わないことで考えています。

次に、資料1-1の2ページ目より、B)個別事業評価についてご説明させていただきます。冒頭でもお話させていただいたとおり、この個別事業評価の対象事業、及び、個別事業評価シート、について委員の皆様のご意見をお伺いできればと思います。

B)個別事業評価は、毎年度、協議会が選抜した5事業を重点評価していきたいと考えています。一次評価が事業所管課による自己評価、二次評価が一次評価を踏まえた協議会委員の二次評価、はこれまでと同じです。

毎年度5事業としたのは、第2次方針には4つの基本目標と、重点プログラムがございます。1目標につき1事業で4事業、重点プログラムから1事業、で5事業、としています。

この5事業の選抜は、市の施策推進において重点的に取り組むべき事業や課題としている事業等を考慮して、文化課より協議会にご提案し、決定していきたいと考えています。原則、重点評価する5事業は毎年度変更しようと思いますが、事業によって2年連続で評価することが望ましい場合もあるかと思います。

資料1-1の2ページ目に（仮）で選定した各年度の5つの事業を表にいたしました。令和5年度の列にある黄色く色づけした5事業が、今年度の個別事業評価対象事業としてご提案させていただくものです。この5事業を今年度の個別事業評価対象事業として良いか、本協議会において、皆様にお伺いできればと思います。

続きまして、B)個別事業評価の評価シートのご説明に移ります。資料1-6個別事業評価シート、をご覧ください。この評価シートの内容についても、皆様のご意見をお伺いしたいと思っています。

（旧）二次評価シートにもあった、事業概要の欄はあまり変わりません。

新しく設けたのは、経年の欄です。事業規模や内容は、予算や人工の大小による影響が大きいため、予算の内訳・人工の種類、などについて経年がわかるようにしてみました。

裏面が評価欄です。

まず、事業所管課による一次評価を5段階で行います。(旧)二次評価シートは、一次評価の欄が、「目的に対する事業実績の達成状況」を文章で記入するものでした。そのため、事業所管課が実際にどの程度目的を達成していると自己評価しているか、が一見してわかりにくいという点がありました。また、各事業を総括する文化課や、事業評価する協議会の皆様にとって、どの事業の自己評価が良く、逆に、悪いのか、わかりにくかったように思います。

そこで、5段階評価、という統一基準を設けてみました。事業所管課が自己評価しやすくなると共に、文化課や協議会の皆様も一目で各事業の自己評価がわかるようになったのではないかと思います。

次に、定性評価と定量評価を組み合わせた方法を取り入れました。これは、評価指標が定性的である、というご指摘からです。ただ、文化事業は定量的なだけではなく、定性的な面もあると考え、両方の観点からの評価を行う、としています。

まず定性評価は、該当事業の目的達成度を評価します。表面、事業概要の欄にある、事業目的について、達成度を5段階で評価します。資料は千人の音楽祭を例としておりますが、「市内の音楽団体が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることで、音楽文化の振興を図る。また、子供たちの未来につなげていくため、事業を通じて音楽環境の整備に寄与していく。」という事業目的の達成度について、5段階で自己評価します。

次に定量評価は、目標値の達成度を評価します。表面、経年の欄にある、目標値は、事業概要欄にある「指標」を基準としています。千人の音楽祭の指標は、来場者満足度です。令和5年度の目標値は、来場者満足度90%としていました。そして、実績値が98%、でした。この結果から、裏面の定量評価の評価項目、目標値の達成度は5、となっております。

以上が、事業所管課による自己評価のご説明です。

続きまして、協議会による二次評価のご説明をいたします。

これまでの、各委員の皆様にデータ資料をご覧いただき、評価を入力する方法から、協議会の場で委員の皆様に評価をコメントしていただく方法に変更したいと考えています。皆様のコメントを文化課で記録し、取りまとめた内容を、皆様にご確認いただき、協議会の二次評価、として事業所管課にフィードバックします。

皆様に協議会の場で評価をコメントいただくにあたり、事業所管課には、「文化振興推進協議会に助言・提案を求めたいこと」について、個別事業評価シートに記入します。これが、事業評価の目的ですので、各事業について何が課題か、どのような助言を求めたいか、を明確にします。また、ご評価いただく前に、各事業について写真や映像を交えて事業説明をさせていただきます。しかしながら、実際にご覧いただく

ことには及ばないかと思しますので、もしご都合の合う方は、実際に事業を見ていただけると幸いです。

この個別事業評価シートについて、皆様にご評価いただくにあたり、不足する情報や、シートの見にくさ、不明点、改善点、などございましたら、ご意見をいただければと思います。

では最後に、(新) 事業評価に関する今後のスケジュールをご説明いたします。

この後、皆様に2点、ご意見をお伺いいたします。1つ目は、今年度の個別事業評価対象事業が、資料1-1の2ページ目の表、令和5年度の列にある黄色く色づけした5事業で良いかどうか。2つ目が、資料1-6 個別事業評価シートに関するご意見。これらについての皆様のご意見を個別事業評価シートに反映させます。

スケジュールは資料1-1の3ページ目に今年度と来年度以降の、2パターンを作成いたしました。

11月上旬に個別事業評価シートが完成しましたら、各事業所管課に実績報告を依頼します。その後、1月から2月頃に、今年度第2回目の協議会を開催し、そこで、皆様に新しい評価方法で事業評価を実施していただきたいと思います。また、来年度の個別事業評価対象事業5つをご提案いたしますので、決定したいと思います。

続いて、来年度(令和7年度)以降のスケジュールについてです。例年どおり、7月頃に第1回協議会を開催します。ここで、前年度である令和6年度の事業評価を実施します。この時、皆様に評価コメントをご確認いただき、8月には事業所管課にフィードバックを行いたいと思います。

(旧) 事業評価のスケジュールでは、事業所管課へのフィードバックが、11月から12月頃となっていたため、ご評価いただいた内容を事業に反映するのが翌年度となっていました。また、毎年度9月から10月に行う翌年度予算要求への対応が間に合わず、評価内容を反映した予算編成ができない状況でございました。

事業評価の時期を7月にすることで、8月以降に実施する事業には評価内容を取り入れることができます。また、翌年度予算要求の際には評価を反映して要求することができます。もちろん、各事業の準備段階や、翌年度に要求どおり予算が付くか、という問題がありますので、必ずということではありませんが、(旧) 事業評価のスケジュールよりは、対応しやすくなると思います。

議題1、第2次方針に基づく事業評価の見直しについてのご説明は以上です。

○太下会長

はい、ご説明ありがとうございました。

今まで皆さんで取り組んでいただいた事業評価方法の見直しのご提案と確認ということですね。

3点を議論いただくことになると思うんですけども、一つは、この評価方法自体の見直しについてのご意見ご質問、2点目はより具体的ですけども、この2ページ目に黄色のマーカーで引いてある令和5年度対象事業がこの5事業で良いかどうかの確認、3点目が資料1-6という番号が振られていますけれども、個別事業評価シー

ト、これも大きく変わることになりますので、この書式内容についての確認。この3点についてご確認いただくということになると思います。

結構大きな変更と言いますか、改善ですよね。ですので、ご質問点もあろうかと思っておりますので、ご質問ご意見あればぜひお願いいたします。

○菅根委員

菅根です。どうぞよろしくお願いいたします。

今までの事業評価が定性評価に偏っていたということで、もう一度、定性評価というものを説明していただければと思いますけどいかがでしょうか。

○太下会長

今のご質問の趣旨は、具体的にはどういう内容が定量評価であり…

○菅根委員

はい。こういった場合が定性評価であり、こうした場合が定量評価であり、ということ。

○太下会長

先程の事例で良いわけですね。千人の音楽祭の。

○菅根委員

はい、そうです。

○事務局（文化振興係長）

はい、定性評価と定量評価を組み入れた方法を評価シートに取り入れてございます。繰り返しになりますけれども、これは評価指標が定性的であるというご指摘が以前にあったからでございます。ただ、文化事業は定性的なだけでなく、定量的な面もあると思っておりますので、両方の観点から評価を行う、ということとしています。

まず、定性評価については、当該事業の目的達成度を評価いたします。1－6個別事業評価シートの表面の、事業概要の欄にある、事業目的について、達成度を5段階で評価します。資料は千人の音楽祭を例としてございまして、事業目的が書かれています。こちらの目的の達成度合いについては定性評価を5段階で自己評価いたします。

次に定量評価については、目標値の達成度を数値化したものを評価する、これが定量評価になります。表面、経年の欄にございます、指標を基準としています。千人の音楽祭の指標は来場者満足度でございますので、これが目標値は90%で、実績値が98%と目標値を上回っておりますので、達成度は5、という評価をいたします。

これが定性評価と定量評価のご説明になります。以上です。

○事務局（文化課長）

文化課の阿部でございます。資料1－4（現）二次評価シート、裏面の一次評価では、千人の音楽祭の達成状況を文章でのみ評価しています。文化はなかなか数字では評価できないところもあるんですが、一方で、数値化しなければどの程度目標が達成できているか曖昧になってしまいますので、これまでの定性的な評価と、新たに5段階評価も加えて、どの程度目標が達成できているか、と組み合わせて新しい評価シートでやっていく、ということです。今までは文章のみの評価で、曖昧になってしまっ

ていたので、そこの反省を活かした、という考え方でございます。

○太下会長

菅根委員がご質問されたのは、私も分かるような気がするんですけど、なんとなく読むと分かるような気もするんですけども、よりシステマチックな感じに整理されているわけですけど、定性目標と定量目標が明示されていない感じがするんですよ。定性目標は一応書いてあるんですけど、指標という欄と、その下の経年の目標値の欄を組み合わせて読んで、さらに本当はこのアンケートって何段階か評価なので、大いに楽しめたと楽しかった、の割合を足すというのが目標なんですよ。これだけだと読み取れないですよ。実際の目標設定がどうなっているのか。さらに定性目標というのは事業目的そのものだとも言えるんですけども、一応文章で明示をしておいた方がいいような気がします。ようするに、事業目的の下に定性目標・定量目標という新たな欄を作って、きちんと書いておくと、裏の定性評価と定量評価と対応して、実際に各担当者の方が書きやすくなると思います。いかがでしょう？そうするともう少しはっきりすると思います。

○菅根委員

これを見て、どうしたいのか、説明を聞いた今なら覚えているのですが、実際に評価する時になると、どうだったかな、てことになるので、ここをやってください、とあると良いかと思います。

○太下会長

まあ、この定性評価・定量評価自体を我々がするものではないですが、その評価を評価するので、やっぱり分かりやすくしていただくのがいいと思います。

○事務局（文化振興係長）

わかりました。事業目的の下に、定性と定量の目的を追加したいと思います。

○太下会長

目標ですね。

○事務局（文化振興係長）

目標ですね。定性目標と定量目標、この2項目の欄を事業目的の下に追加するという事で検討したいと思います。ありがとうございます。

○太下会長

よろしくお願いします。

○澤田委員

澤田です。確認したいのですが、定量の評価、この事例のところで、来場者数から98%の回収率があったという意味でしょうか？

○太下会長

回収率ではないですね。

○澤田委員

そういう意味にとれますね。定量ということですので、98%の根拠、来場者数の何%からアンケートを頂いて、そのアンケートの何%の人が満足、大体満足、なのか

明確にさせていただいた方がよいと思います。たいてい私どもが活動していてもアンケートがなかなか集まりにくく、3割集まったらいい方です。そのような中でこれらの評価をするというのであれば、定量と言いながら根拠を、どういう数字なのか、というのを明確にさせていただいた方が、より説得力が出ると思います。

○事務局（文化振興係長）

事務局でございます。この定量評価の評価理由のところ、来場者の90%から、と記載しておりますが、正確には来場者からいただいたアンケートの中で、98%の人が、大いに楽しめた・楽しかった、という回答をいただいておりますので、澤田委員のおっしゃっていただいたように、定量評価をする上で正確に数値を評価できるように記載を改めたいと思います。ありがとうございます。

○松本副会長

松本です。よろしくお願いします。

今まで評価したコメントとかが、事業所管課に行くのが2年遅れだったのですね。それで、私どもが評価している時には、もう次の年の計画ができてしまっていて、さらにその次の年にこの評価したものが行く、ということで、これでは人も変わってしまうかもしれないし、事業にフィードバックするといっても、とてもできなかったと思うんですね。それが今回は、事業をやって、次の年にもう評価したものが行くということで、1年遅れではあるけど、少しはそれがきちんと活かせるのかなと思いましたので、とてもよかったと思います。本当はすぐに次の年に評価が行けばいいんですけど、これでもまだ1年遅れですからね。まあそれは難しいかと思うので。とても良かったと思います。

○太下会長

はい。松本先生ありがとうございます。

まさにそうですよね。そういう意味では資料1-1の表に課題ってありますから、本当はここに今までの評価の反映が2年度遅れてきたっていうのも結構大きな課題としてあった方が良かったと思いますし、改正しても1年遅れなんですけど、もしかしたら課題の中には現場ですぐ反映できるものもあるかもしれないので、だいぶ改善になり得る可能性はあるかなと思ってお聞きしておりました。

他に何かご質問ご意見ございますでしょうか。

つなぎで私から1点質問なんですけれども、資料1-1の2ページ目ですね。個別事業評価の改善ポイントと☆印で書いていただいておりますけど、そのうちの下の2つですね。現在の各委員がデータ資料を見て評価を入力する方法から協議会の場で評価をコメントしてもらふ形式に変更、と、それともう1つ、事業評価を実施する前に、協議会で写真や映像を交えて事業説明実施、とありますけど、それが次のページのスケジュールにどう反映するのかなっていうことですね。素直に読むと何かこういった委員会の場で事業説明のようなことがどこかであるのかな？とかですね。さらに、我々委員の立場からすると、協議会の場でコメントするとは言ってもきっと事業評価シートを事前に書いてそれを持って会議に参加するのかな？とかですね。

いろいろ考えてしまうので、要はどのような事業フローになっているのか、というのをより分かりやすく説明いただければということなんです。

○事務局（文化振興係長）

協議会の場で評価資料をご提示して、いきなり評価をしていただく、ということではなくて、事業所管課が一次評価をして、その評価シートが上がってきますので、協議会の前には皆様にお届けをして、ご覧いただきたいと思います。

そして、その事業評価を実施する前には、我々事務局の方でその事業の写真ですとか、映像ですとか、そういったものを具体的に見ていただいて、大まかな実施内容を把握していただければと思います。

○太下会長

それは、協議会の場でやるのですか？

○事務局（文化振興係長）

左様でございます。

○太下会長

評価シートは事前に記入して、委員会を開くんですか？そこまでは特に詰めていなかったですか？

○事務局（文化振興係長）

事前に記載をしていただく、ということまでは考えておりませんでした。事業所管課が一次評価を書いたものをご提示して、この協議会の場で思った評価を言っていただければと思います。しかしそれが二次評価として事業所管課にいきなりフィードバックされるわけではなくて、「先の協議会で委員の皆様からいただいたご意見をこのように記載してみました、ご確認いただけますか？」ということをやって、それから事業所管課に返す、という流れで考えております。

○太下会長

了解しました。では、個別に記入するというわけではなくて、こういう会議の場で発言をして、それを事務局で取りまとめていただいたものを改めて確認すると、そういう流れですね。

○事務局（文化振興係長）

左様でございます。

○太下会長

了解しました。他に何かございます？

○菅根委員

菅根です。写真や映像を用いて事業説明をして今年度の場合はどういうふうにするんですか？来年度からってことですか？もうこれ第1回目ですよ。次第2回目でコメントするんですか？

○事務局（文化振興係員）

事務局でございます。次回の協議会は2月ぐらいを予定しておりますので、その協議会の場で写真とか映像をお見せした事業説明をしたいと思っております。

○太下会長

その段階では、今年度の評価対象事業は終わっているのでは、ネタがあるということですね？

○事務局（文化振興係員）

今年度の評価対象事業は令和5年度の事業を予定しております。

○太下会長

わかりました。前の年度の事業だからもう終わっているということですね。

○高屋委員

高屋です。すみません、少し戻ってしまうんですが、定性と定量の事業目的とか、目標値の設定って、基本的にはそちらサイドがおやりになるということですか？

○事務局（文化振興係長）

はい、事務局でございます。こちらの目標設定は各事業所管課が行うことになっていきます。

○高屋委員

そうすると、例えば千人の音楽祭なんですけど、事業目的の評価で1,947人の開催ができたため、今は5になっていきますけど、これは例えば、何で良かったとか悪かったのか…？

○太下会長

それは先ほど私が言った通りそうです。現状では定性目標が設定されてないんです。それが今後改善されますので。

○高屋委員

わかりました。改善されるということで、その辺が過去の実績みたいなのがばっと出れば分かりやすいかな、と思ったんですけど。

○事務局（文化振興係長）

ありがとうございます。先ほど申し上げた事業目的の下に定性目標・定量目標、この2つの目標を掲げて、評価が分かりやすくしたいと思っております。ありがとうございます。

○太下会長

今、高屋委員がおっしゃったとおり、定性なり定量なりと関わるような重要な指標があるのならば、経年のデータとしてそれも追加されるというわけですね。

他に何かご意見ご質問ございますでしょうか。

○小野木委員

小野木です。質問内容がずれていたら申し訳ないのですが、例示されている千人の音楽祭を見ると、上の方に第2次基本方針の基本目標Ⅲ育みつながる、という事業の位置付けがあります。資料1－2基本方針の施策体系がベースとしてあるわけですが、それぞれの事業がこの中でどこに位置付けられているか、というのは文化課の皆さんの方でお決めになってご提示される、ということで良いわけですね。

その時に、こうした文化事業はさまざまな側面から捉えられる性質があると思うの

ですが、例えば、千人の音楽祭が育み繋がるなのか、ということは、事業概要から見えてはくるんですけども、実際今まで評価してきた中で、いつもこの事業を評価する角度はこれで良いのかな、という気持ち的に迷うことが多々ありました。ですから、なぜこの施策体系で、なぜこの文脈で評価するのか、を示していただけていると評価する時のポイントもより絞れるのではないか、と思えるのですけれども、いかがでしょうか。

○太下会長

今の小野木委員のご意見、その通りなんですけど、おそらくさっき指摘したその定量なり定性のですね、評価目標というのが明示されれば、わかると思うんですよね。

何々であることを目指す、みたいな、ことがここに書かれるので。さらに言えば、小野木さんがさっきおっしゃった通り、事業というのは色んな側面・ポテンシャルを持っているので、今は良いんだけど、もしかしたら2・3年後、色んな状況の変化の中で、この事業はそういうことじゃなくなってきたんじゃないかな、とか、例えば、これはインバウンド観光に資する事業に性格が変わっちゃったからそっちの方の施策で考えた方が良くないかな、みたいな変化がもし感じられたら、逆に我々の委員のコメントとして施策体系の変更が望ましいんじゃないかな、みたいなことを言えればいいんじゃないかな、と思います。

○小野木委員

なるほど。理解しました。

今までずっと評価させていただいて、この事業はこの角度からで良いのかなと思うことが多々あったもので。これだけ事業がありますので、位置付けの変わっていく性質のものもあると思いますので、そこら辺がね、ちゃんと受け止められるような仕組みが出来ていると良いなと感じた次第です。

○高屋委員

私の理解が足りなかったらすみません。この重点評価で5事業選ばれてるんですが、この重点評価に選ばれなかった者達はどうなるんですか？それが全然分からないんです。というのは、収入と支出で収入が多ければいいっていうわけじゃ文化はないと思っているんですよね。すごく地味だけど、これ頑張ってほしい！みたいなのがいっぱいあるので、そういうものたちはどうなっちゃうんですか？それが分からないんです。

○事務局（文化振興係長）

事務局でございます。5事業の選定についてということによろしいですかね。

○高屋委員

5事業の選定以外がどうなっているのか、です。

○事務局（文化振興係長）

事務局として、基本目標の中から1つずつで計4つと、重点プログラムの中から1つ、合わせて5事業を選抜してご提案をして、協議会の中でこの5事業をを評価しようということで決めます。そして、また次の年は事務局からまた違うものを評価して

欲しければそれが変わって提案をいたしますし、毎年度ローリングするような形で考えてはおります。なので、その評価されなかったものがずっと評価されないということではなくて、この時の評価が大変良かった事業なので、次ちょっとここが課題だなんていう思う事業があるからこれを評価していただだけませんか？という形で、5つの事業は変わっていきます。

○事務局（文化課長）

進捗管理シートというものを設けて、関連事業については各事業所管課が自己評価を行っていく形にはなっています。ただ今まで、委員の皆様に評価していただく事業は非常に多く、逆に散漫になってしまっていたのかな、というのがありますので、毎年度5つに絞って、そこは重点的によく見ていただくということです。

○太下会長

（新）進捗評価のシートも委員に提示されるわけですね。ですから評価しなくていいんですけど、我々は。ただし、高屋委員として気になる事業があれば、それはコメントいただいても良いようですね。義務はないけれども、コメントを言うことはできると思います。

○澤田委員

澤田です。今回のこの紙シートは、すごくクリアになっていて、私どもも評価させていただきやすいかなと思います。活動を全部見るわけにいかないですし、なかなか見られないので、すごく良いなと思うとともに、今までやらせていただいて、色んな活動を船橋市はやってらっしゃるので、それらの活動に私どももこの5つの活動に対してコメントさせていただくんですけれども、例えばその中でこれは他の事業にも活かせるとか、そういうような循環するような形になっていることがあると、我々も嬉しいなと思います。それと同時に、例えば船橋市のご活動の全体像のことを、この5つに限らずご報告というか、教えていただいて、その全体の活動の中で把握してらっしゃる問題点などがあれば、教えていただけるとか。そのようなものを拾えるようなというか、知ることができるような形で全体が盛り上がるというようなことになればいいのかなと思います。高屋さんのご質問も、そういう趣旨だったと思うんです。大変だとは思いますが。

○太下会長

おそらく、簡略化するために5事業に絞るとというのがベースのご提案だと思うんですけど、絞っちゃった後の他の事業についても何か事務局としてあればですね、ぜひこういう協議会の場に俎上に乗せていただければいいんじゃないかと思います。その全部をまた報告すると全然絞った意味がなくなっちゃうので、何してんだかわかんなくなっちゃいます。絞った上でもし他にご懸念点とかちょっと協議してもらいたい点があれば、この協議会の俎上に乗せるということで良いですかね？

○澤田委員

そういうことですね。無ければそれはそれで良いので。

○事務局（文化振興係長）

わかりました。ありがとうございます。

○事務局（文化課長）

例えば、社会教育関係団体のうち文化団体の数や、学校での文化部の数など、市内の文化活動の状況を俯瞰してとらえ、定例的にご報告するということも、検討したいと思います。

○高屋委員

ありがとうございます。高屋ですが、社会教育関係団体の会議で、保育を行う団体と、子供達を対象に出店を行う団体が別々に活動していたことを知り、それを一緒にできないか、と話し合ったことがありました。そういうことを考えるきっかけになるよう、様々な活動を広く見ることができてよいのではと思いました。よろしくお願いします。

○太下会長

他に何かご意見ございますでしょうか？ だいたいよろしいですか？ いろいろご意見は出ましたけれども、そういったコメントを反映させていただくということで、大きな変更になりますが、ご了解いただいたということでよろしいでしょうか？

○小原委員

すみません、小原でございます。資料1－6の裏面一番最後のところが我々のコメントになるんですね。その前の文化振興推進協議会に助言・提案を求めたいこと、に対して我々が答える、という作業になってくるってことですよね。であれば、何が課題なのか、どのような助言を求めたいのか、ということ、例えば、課題、とか、求めたいこと、とか、を分けて、明確していただけると我々も答えやすいのかと思うので。ご検討いただければと思います。

○太下会長

はい、その点もご検討いただければと思います。では、よろしいでしょうか。では、基本的にコメントいただいた点は、ご検討いただくという前提で了解いただいたことで判断したいと思います。ありがとうございました。

それでは続いて議題2、次期方針の策定について、事務局から説明願います。

○事務局（文化振興係長）

次期方針の策定についてご説明します。

現在の第2次文化振興基本方針が令和8年度に期間満了となるため、令和7・8年度の2年間をかけて次期方針を策定する予定です。

「資料2」をご覧ください。船橋市文化振興基本方針は平成27年度に資料左の表のとおり方針策定委員会を設置し策定いたしました。29年度には文化振興推進協議会を設置し、その協議会において方針に関連する施策の進捗管理や評価を行うほか、第2次方針の策定も行いました。

さて、次期方針の策定にあたっては、平成29年に公布された文化芸術基本法において、地方公共団体は、国が策定する文化芸術推進基本計画を参酌した「地方文化芸術推進基本計画」を策定する努力義務が規定されていることを鑑み、第3次方針では

なく新しい「計画」として策定することも含めて検討しなければならないと考えているところです。

つきましては、次期方針（または計画）の策定にあたっては、第1次の時と同様に、市民の意見を広く反映させるため市民委員を公募したいと考えています。令和7年度の策定開始に間に合うよう、令和7年1月には募集を開始したいと思っています。

今後のおおまかな予定ですが、今年度中に市民委員を決定のうえ、7年度は策定委員会を設置し、市民アンケートを実施のうえ、方針の骨子案までを策定したいと考えています。また、8年度に方針原案の内容について協議し、パブリック・コメントを実施いたします。

なお、方針策定委員会の設置にあたり、事務局としては文化振興推進協議会委員と市民公募委員を合わせて策定委員会とする形で考えておりますが、まだ来年度予算の査定前でございますので、全体的な構成メンバーについては改めてご案内させていただきます。

議題2、次期方針の策定についてのご説明は以上です。

○太下会長

はい、ご説明ありがとうございました。

次期方針の策定ということですが、大まかな話ですよ。現時点では、ということですがけれども、何か現時点でのご意見のある方いらっしゃいましたらお願いいたします。

では、1点私から質問ですけど、これ現状の船橋のこの方針と言いますか、これは、国の文化芸術基本法の策定前からあるので、そこにはご説明のあったとおり努力義務が明示されたけど、その前からあるからそれ自体は変更せずに今まで引きずってます、という状況だということですね？そして改めて、変えるタイミングにきたので、じゃあ新規に作ろうかということも視野に入れて検討します、ということですね？

○事務局（文化振興係長）

おっしゃるとおりでございます。

○太下会長

何かご質問ご意見ございますでしょうか、といっても、あんまり大きな話ですので、あんまりないかもしれませんが。よろしいでしょうか。はい、それではまた後で思いつかれたらご質問していただいても結構です。

続いて、その他事業実施報告について事務局から説明してください。

○事務局（文化振興係員）

文化課の事業報告は、先週10月19日（土）・20日（日）に開催した第11回ふなばしミュージックストリートについてです。お手元に、当時配布したパンフレットをご用意いたしました。パンフレットの裏表紙をご覧ください。今年度も、バックストリートミュージックという、ミュージックストリート開催前に、船橋駅南口周辺飲食店で弾き語りライブを開催しました。パンフレットの表表紙を1枚めくっていただきますと、左上に会場マップとスケジュールがございます。今年度も2日間に渡り、

様々な会場で、ライブパフォーマンス・学生バンドコンテスト・弾き語りコンテスト・あおぞらカラオケライブ、を実施いたしました。

続きまして、今後の事業紹介をさせていただきます。12月4日（水）から15日（日）は、「令和6年度 アレも、コレも、船橋市所蔵作品展 ―ふなばしアートカードになりました―」を船橋市民ギャラリーで開催します。

また、来年2月から公民館等を会場にした地域ふれあいコンサートが始まります。今年度は14館で開催予定です。2月1日（土）に始まり、3月の第1週目まで、土日を中心に各公民館で開催します。

そして、来年2月2日は第32回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭を船橋アリーナで開催予定です。今年度も実行委員会を中心に、様々な企画を考案しています。

これらの事業について、ご都合が良ければお越しください。

文化課からは以上です。続きまして、市民文化ホールより事業実施についてご報告します。

○市民文化ホール館長

市民文化ホール及び市民文化創造館の

令和6年度のこれまでに実施しました事業につきまして、主なものをご報告させていただきます。

市民文化ホールでは8事業、市民文化創造館では有料公演4事業、無料事業ではちょっとよりみちライブ6回、よりみちライブ特別公演「船橋大神宮の神楽」、夏休み子ども向けワークショップ「手話ミュージカル」が終了しております。

今年度も様々なジャンルの事業を行い、ふるさと船橋で質の高い文化に触れていただく機会を提供してまいりたいと考えております。

文化ホールでは、パリオリンピックにあわせてリマト室内合奏団とフルーティストの上野星矢さんによるフランスの名曲をお届けしました。

また、伝統芸能に触れる機会として、ふなばし能「熊坂」を行いました。公演に先立ち、豊富中学校でアウトリーチを行い、生徒の皆さんに能の体験をしていただきました。また、公演当日にも笛や太鼓、鼓などの体験コーナーも行い、鑑賞するだけではなく実際に触れてみるという貴重な体験の機会となり、体験してから鑑賞することで、より深く興味をもってご覧いただけたことが、アンケートからも伝わってきました。

市民文化創造館では、海外招聘として、北欧の音楽界最高峰トリオ ドリーマーズサーカスの来日公演を行いました。デンマークの伝統音楽とクラシック、オリジナルの楽曲など3人の息の合った軽やかで素晴らしい演奏に皆さん酔いしれていました。

また、よりみちライブ特別公演では、船橋大神宮楽部の皆さんが雅楽と神楽をご紹介くださいました。満員のお客様を迎え、普段なかなか聴く機会のない雅楽や舞にあらためて感動されていました。若い後継者の皆さんが頑張っている姿も印象に残りました。

ここまで事業を実施してまいりましたが、特に今年度は集客の難しさを感じており

ます。各施設へチラシの配架を行い、広報ふなばしや市のエックスX、デジタルサイネージ、新聞広告など、広報活動を行っておりますが、文化ホールもきららホールも集客に苦戦しております。実際に見に来てくださった方のアンケートでは、大変ご好評をいただいているのですが、もっと多くの方に来ていただけるように今後も分析をまいります。

今後の事業につきましては、各公演のちらしをお配りさせていただきました。第30回となる社会人ビッグバンドジャズの祭典、BAND SUTAND FUNABASHI では公募したヤングバンドの皆さんの演奏やゲストにマリーンをお迎えし開催いたします。

また、市民参加型のアンデルセン立体的朗読劇もキャスト、スタッフあわせて32名が現在練習を重ねているところです。このほか、様々な公演がございますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

最後に、市民文化ホールは開館から46年が経過し、老朽化が著しいため、船橋市公共建築物保全計画に基づき大規模改修工事を行う予定です。工事に伴い令和7年12月から2年程度休館する予定です。すでに市民の皆様には、市の広報やホームページ、また、抽選会などでお知らせしているところです。ご利用の皆様には大変ご不便をおかけすることになりますが、お問合せ等には丁寧に対応してまいります。 以上です。

○郷土資料館長

郷土資料館より夏休み期間中に開催しました3つの企画展についてご報告いたします。

本日お配りいたしました資料をご覧ください。

まず、一つ目ですが 郷土資料館企画展「船橋の食文化」についてご説明いたします。

郷土資料館を良く訪れるリピーターには、近隣の小学校や保育園・幼稚園に通う子供たちが多くいます。また、土日や長期休暇には、2世代・3世代で郷土資料館を見学してくれる市民や、帰省ついでに立ち寄ってくれる方も多くいます。そこで、今回夏休みを含む7月13日から9月8日の会期で開催する企画展のテーマを「船橋の食文化」としました。

展示では、船橋の特産品である食材や料理だけではなく、日常食・外食・学校給食など様々な「食」を取り上げ、また、講座等において実施してきた「食」の思い出に関するアンケート結果を参照したり、市内外の研究者・学生・栄養士などと意見交換したりして、身近なのに意外と知らない「船橋の食文化」のことを、親しみやすくお伝えしました。

関連イベントとして、学芸員による展示解説を行ったほか、展示解説ボランティアを夏休み学芸員として募集し展示解説してもらう企画や、児童・生徒向け公開講演会（会場は浜町公民館）、今後展示解説動画を作成して「ふなばし生涯学習チャンネル」に公開予定です。

なお、今回の企画展は、立命館大学食マネジメント学部、県立薬園台高等学校園芸

科、学校栄養士会等の協力を得て開催いたしました。

会期50日間に訪れた来館者数は、4,163人で103人から頂いたアンケートの回答には大変良かった・良かったが95人・92%を占め好評でした。比較的来館者が多かった背景には、コロナ5類移行や前年に比べ猛暑日が少なさによる市民の行動変化、新京成スタンプラリーのチェックポイントとなったことが市内外からの来館者増につながったと考えられます。テーマや展示内容、会期中のイベントへの関心の高さ、観覧者の満足度の高さを踏まえると、学校給食関係の調査の継続や、市内小中特別支援学校対象の事前調査や児童・生徒の関心事の把握など準備段階の努力が功を奏したと考えられます。

第2展示室という限られた空間で、未就学児から郷土史愛好家までの幅広い層が楽しめるコーナーを用意したいと考えた結果、一部の成人にはもう少し詳しく知りたいと思う内容があったようでした。展示に生かせなかった内容は解説やパンフレットの工夫、展示内容をより深く学べる講座の実施や刊行物等を考えていきたいと思えます。

二つ目は、吉澤野球博物館資料展示室企画展「君の推しはどこだ！～戦国千葉の甲子園～」についてご説明いたします。

今年は全国高等学校野球選手権大会の会場である阪神甲子園球場が開場100周年を迎え、また、千葉県大会は参加出場校や強豪校が多く参加する「戦国千葉」とも言われています。今回は吉澤野球博物館展示資料室の高校野球にまつわる収蔵品のほか、県内の強豪校等からも資料を借用して戦国千葉の夏の甲子園について紹介しました。

会期は7月6日から9月8日で会場は船橋市総合体育館（船橋アリーナ）内吉澤野球博物館展示資料室。展示内容は、吉澤コレクションから、年表パネルや雑誌・書籍資料を用いて甲子園の経緯と歴史を紹介したほか、千葉県初の甲子園出場校「千葉師範学校甲子園記念アルバム」、ミスタージャイアンツ「長嶋茂雄氏」に関する資料、市立船橋・市立習志野・専修大学松戸・木更津総合・銚子商業からユニフォームや甲子園出場の記念品や写真なども展示しました。

また、関連イベントとして、今年惜しくも準優勝となった市立船橋高等学校野球部の監督である海上雄大氏を講師に招いてスポーツ講演会「戦国千葉の高校野球～甲子園を目指して～」を9月8日に63人の参加者を得て開催し、県内一の部員数を誇る「イチフナ」野球部監督の部員たちとの関わり方や部員のモチベーションの保ち方、部活動の経営方法等についてお話しいただきました。

会期中の来館者数は会場が船橋アリーナである為確認はできませんが、企画展をご覧になった31人の方からアンケートの回答を頂き、大変良かった・良かったが29人・94%を占め好評でした。昨年の企画展と比べ会期を長くすることで、夏休み中の学生のみならず、甲子園（高校野球）に興味を持つ50代以上や、仕事などで予定が組みにくい20～40代の就労世代にも見てもらえる展示になったと思います。千葉県予選・夏の甲子園の開催期間に会期を設定したことが、旬なイベントとして各種メ

ディアに取り上げられ取材も多かったと感じています。スポーツ講演会は企画段階から相談していた船橋市立船橋高等学校にお願いすることができ、当初定員の50人から増員して開催することができました。展示では、映画で有名となった皆さんもご存じの「市船ソウル」などの応援BGMの音源や、ユニフォーム・記念品を借用・展示したことで、現代でも関心の高い戦国千葉の甲子園について紹介できたと感じています。

一方、ユニフォーム等の借用に向けた調整ではかなり難航したので、借用の資料や量について精査・検討が重要であると感じています。今後は所蔵資料を中心に展示内容を組み、企画・準備・展示までのスケジュールも見通しを立てて取り組んでいきたいと思います。

次は、飛ノ台史跡公園博物館「第23回縄文コンテンプラリー展 in ふなばし」についてご説明いたします。

縄文コンテンプラリー展は、飛ノ台史跡公園博物館開館の翌年から開催し「縄文文化」の理解を目的に、アーティストが「縄文時代」から受けたインスピレーションを作品や映像、パフォーマンスなどで表現する企画展です。

今回のテーマは「風土～縄文の造形と世界～」とし、変化する生活環境が造形に及ぼす影響を踏まえ、博物館の遺物や縄文人心にコンタクトした新たな創作表現でアートを生み出しました。縄文時代は数千年単位で寒冷・温暖の変化があり、縄文人が変動する気候にいかに対応しながら生きてきた、縄文人の造形物と風土の関係を表現に結び付けたものでした。

会期は7月21日から9月1日までで、初日には「縄文アートまつり」を開催しました。ワークショップやアーティストトーク、人形劇のパフォーマンス、アーティストによるワークショップなどを実施し多くの参加者に体験していただきました。

37日間の来館者数は2,939人で、企画展をご覧になった28人の方からアンケートを頂き、満足・やや満足が26人・93%を占め好評でした。同事業は実行委員会形式で企画・運営を行っている事業でありますので、次年度以降については実行委員の皆様と知恵を出し合い、多くの皆さんが縄文時代についてより理解を深めていただけるものとなる様に検討してまいります。

郷土資料館からの報告は以上となります。

○太下会長

ありがとうございました。事務局から、説明がありましたが、皆さん率直なご感想や意見などあればお願いします。

○日野原委員

日野原です。よろしくお願いします。

文化ホールは市内でも学校でも市民も、色んな文化と触れ合う大事な場所だと思うんですけども、大きな改修ってことで、時間とお金をかけていくと思うんですけども、改修に当たっての新しいビジョンとか、こういうところが変わるよ、とかがあれば、期待もしているので伺いたいなと思います。

○市民文化ホール館長

はい、市民文化ホールです。改修工事につきましては、長期に渡るというところで、本当にご利用者の皆様にはご迷惑をおかけするということですが、改修の内容というところでよろしいでしょうか。

この度の改修工事は、施設を安全安心して使っていけるようにという空調ですとか、屋上外壁防水などの修繕、あとは特定天井の改修工事、というところが中心となっておりますので、客席などは今あるものを外してまた再設置するなどの内容になっておりますので、安全に使っていただくために長寿命化を図るというところが目的なっているところでございます。バリアフリーに関しても難しいところもございまして、できる範囲の中で行っていきたいというところでございます。以上です。

○日野原委員

ありがとうございます。

○太下会長

他、何かございますでしょうか。

○小野木委員

小野木です。建物内の基本導線ですとか、今現在ある施設そのものは変わらないということですね。また、伺いたいのは閉じている2年間の間の事業というのは、どういうふうになさるのでしょうか？

○市民文化ホール館長

市民文化ホールです。きららホールの方はこれまで通り開館しておりますので、こちらでの事業は行ってまいります。市民文化ホールの事業につきましては、他所の施設をお借りしてとか、色々検討もこれから行っていくんですけれども、なかなか今まで通りというのはできないかなと。学校などにこちらから出向いていくとか、公民館などお借りするとか、できればいいなと思っているんですけれども、まだ実際には具体的には検討ができていないところでございます。

○小野木委員

わかりました。今、国立劇場が同様の状況で、どういう方針で文化施設から発信する事業を定着させていきたいのか、また、行政がこうした文化事業を実施する根本的な意味が問われています。逆に、今までの文化ホールにおける実施事業のあり方を見直す絶好の機会でもあると思います。ぜひその辺はしっかりと検討していただけることを期待しています。

○市民文化ホール館長

ありがとうございます。

○太下会長

他に何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。また後で戻っていただいても結構です。それでは専門部会の進捗状況について事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（文化振興係員）

それでは、専門部会の進捗状況についてご説明いたします。

BUNBUN Funabashi. は情報量が多く読みづらいとの指摘を受け、昨年度中にレイアウト変更を進めておりました。お手元に、レイアウト変更後の BUNBUN Funabashi. を 3 刊をご用意いたしました。

まず、手に取って読みやすいよう紙面を横型から縦型にし、デザインを一新しました。

表紙は、以前、表紙も情報を載せるスペースとして活用できる、というアドバイスをいただいたので、メインイベントの情報を全面に掲載しています。

また、中面は、それまでは各事業を均等に掲載していましたが、イベントを厳選してレイアウトに余裕を持たせ、写真やイラストを交えたメリハリのある紙面としています。

裏面は、各施設のイベント情報を写真や QR コードと共に掲載しています。

以上です。

○太下会長

はい、ご説明ありがとうございました。だいぶ読みやすくなりましたね。皆様いかがでしょうか。ご意見とかあればぜひお願いします。

○菅根委員

ちょっとお願いします。それぞれの立地ですかね、駅から何分とかそういうのは敢えて書かなかったということでしょうか。どこに行ったらいいかな、みたいな情報としては。

○事務局（文化振興係員）

そうですね。立地に関しては掲載をしておりませんでした。QR コードがあるものについてはそこからわかるようになっているのですが、紙面として場所が分からない点はあるかと思いますので、今後検討していきたいと思います。

○太下会長

船橋市は文化施設が非常にあちこちに点在していますので、それがわかりやすくなった方がより良いかと思います。

他何かご質問ご意見ございますでしょうか。よろしいですか

はい、船橋市教育委員会組織規則の改正について、事務局から説明してください。

○事務局（文化振興係委員）

それでは、船橋市教育委員会組織規則の改正について、ご報告いたします。資料 4－1、をご覧ください。令和 5 年度第 3 回の協議会で、文化団体の支援について、の議題の中で、船橋市教育委員会組織規則にある「育成指導」という文言の修正について、皆様にご意見をいただきました。

結果、令和 6 年 4 月 1 日付けで、資料 4－2 のとおり、「育成指導」という文言から「支援」に規則を改正いたしました。その他、「団体」を「活動」に変更するなど、字句の調整を行っております。

以上です。

○太下会長

そうですね。前回協議会で出たご意見の反映ということになるかと思いますが、何か質問ございますでしょうか。ちょっと上から目線だったのを変えたという感じですね。

はい、よろしいでしょうか？今後のスケジュールについて、事務局から説明してください。

○事務局（文化振興係員）

まず、個別事業評価シートについて、本日皆様からいただいたご意見を反映させ、後日、完成形をお送りいたします。協議会終了後に、もし何かお気づきの点等ございましたら、ご連絡いただければと思います。

次に、次回の協議会についてです。次回協議会の議題は現時点で2つを予定しています。1つ目が、（新）事業評価の実施、2つ目が、翌年度個別事業評価対象5事業の選定、です。

開催は来年2月頃を予定しています。年内には、皆様に日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いします。以上です。

○太下会長

はい、今後のスケジュールについて事務局の方から今ご説明ありましたが、何か確認点ご質問等ございますか？いいでしょうか？はい、それでは、これで令和6年度第1回船橋文化振興推進協議会を終了いたします。委員の皆様お疲れ様でした。